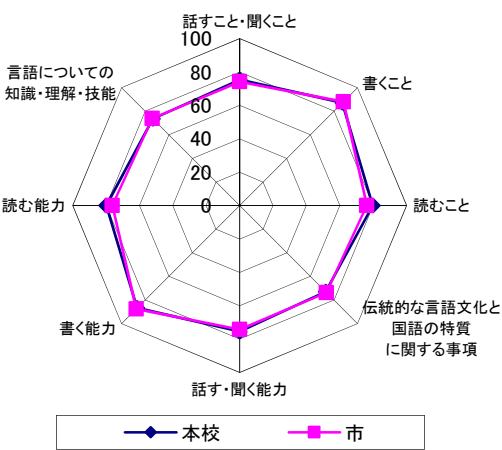


宇都宮市立上河内中学校 第3学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	話すこと・聞くこと	75.4	74.2	68.8
	書くこと	87.0	88.0	73.8
	読むこと	79.8	76.2	71.7
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	73.0	73.6	68.8
観点別	話す・聞く能力	75.4	74.2	68.8
	書く能力	86.7	87.5	73.8
	読む能力	79.8	76.2	71.7
	言語についての知識・理解・技能	73.4	74.0	68.7

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

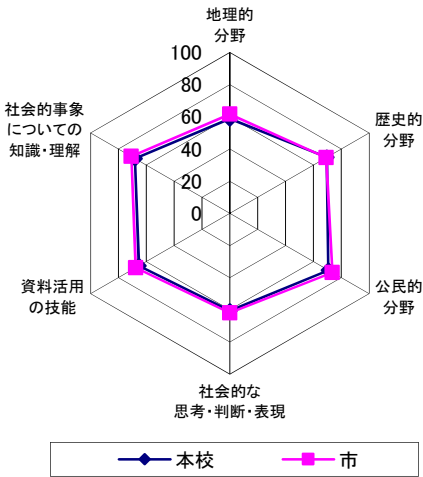
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○市の正答率74.2%に対して12ポイント上回っている。 ○全ての設問において、市の平均を上回っている。 特に、「聞き手に理解してもらうための話し方の工夫を聞き取る」設問においては、市の平均を3.4ポイント上回っている。	・3年間を通して、実生活に結び付くような言語活動を取り入れることにより、授業中学んだことを普段の生活でも意識させ、「話すこと・聞くこと」の力の定着を図る。 ・「聞き方テスト」やノート指導を通して、意識して聴いたり、ポイントをメモしたりする習慣を身に付けさせていく。
書くこと	●市の正答率88.0%に対して1ポイント下回っているが、参考値(全国平均)よりは13.2ポイント上回った。 ○「指定された文字数で書く」「三段落構成で書く」は、市の平均を3ポイント以上、上回っている。 ●「自分の立場を明確」にしたり、「立場の理由を書く」「自分の考えを明確に書く」は各3ポイント程度下回っている。	・市の平均を上回った項目と下回った項目から、「書く」ことについて、抵抗はあまりないが、その内容や文章構成に課題が見られる。授業において、文章の型を示して書かせる指導や、言葉一つ一つを意識して選んで書かせる指導を行う必要がある。 ・引き続き、全学級において、スタンダードダイアリーを毎日書くことにより、「書く」ということへの抵抗を少なくしていく。
読むこと	○市の正答率76.2%に対して3.6ポイント上回っている。 ○すべての設問に対して、市の平均を上回った。 ○特に文学作品の読み取りに関して「登場人物の心情をとらえる」設問が両方とも90%以上の正答率で、市の平均を5～6ポイント上回った。	・物語、論説文などを読むことに関しては、比較的抵抗なく取り組むことができていますが、実生活に結び付くような資料の読み取りについては苦手意識が見られる。教科書のテキストだけでなく、発展的な資料も読み取るような言語活動を多く取り入れていく。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	●市の正答率73.6%に対して0.6ポイント下回っている。 ●「漢字を読む」では、4問中3問、市の正答率を下回った。また、「敬語」の問題は、4.5ポイント市の正答率を下回った。古典の内容理解に関しては、内容把握の設問が3問中2問、市の平均を下回っている。 ○「漢字を書く」では、4問中3問、市の正答率を上回った。	・簡単な漢字は書くことができるが、少し難解な漢字を読むことができない、敬語の使い方が分からないということから、語彙力の向上、場に応じた言葉の使い方を身に付ける必要がある。授業における語彙力を増やすための言語活動の工夫や、日常生活における言葉によるコミュニケーションの場の設定を考えていく。

宇都宮市立上河内中学校 第3学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	地理的分野	58.8	61.7	54.6
	歴史的分野	69.6	69.2	59.6
	公民的分野	70.7	73.6	67.8
観点別	社会的な思考・判断・表現	60.6	61.9	51.9
	資料活用 の技能	65.2	67.7	57.7
	社会的事象についての知識・理解	68.2	70.7	64.7

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。
(社会では本市独自の設問が含まれるため、参考値は全設問に対応した値ではない。)



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

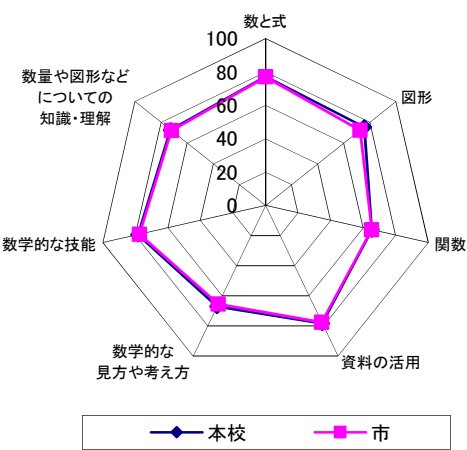
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
地理的分野	●市の正答率61.7%に対し、2.9%下回っている。 ○地形図の読み取りなど、「身近な地域の調査」の学習を得意としている。 ○歴史との関連からの資料をもとに考察し、表現することは市の正答率を上回っている。 ●統計資料をもとに考察することを苦手としている。	・地形や気候、海流の名称などの基礎的な事項については、白地図を利用した作業を通して定着を図っていききたい。 ・雨温図やグラフ、データをもとに作成した表などを読み取り、考察した結果を表現することを取り入れた授業の実践を増やしていく。 ・他の地理的事象や他の分野の事象と関連付けて考察する機会を増やしていく。
歴史的分野	○市の正答率69.2%に対し0.4%上回っている。 ○資料をもとにした考察や説明、判断については、概ね良好である。 ○記述式の設問に対し、粘り強く取り組める。 ●近世や近代に比べ、中世とくに室町時代の学習内容の定着度に低さが見られる。	・学習の進展にともない以前の内容が不十分になりがちであることから、時代の変遷にともなう変容や変化を意識した授業展開を工夫する。 ・文化史については、現在との結び付きや関連を意識しながら理解させる。
公民的分野	●市の正答率73.6%に対し、2.9%下回っている。 ○人権について、歴史的分野の学習を生かせる設問は、定着度が高い。 ●その一方、新しい人権や公共の福祉についての理解にやや難が見られる。 ●憲法改正や地方自治における直接請求権の手続きについての定着度が低い。	・人権に関して、より理解が深まるように、日々の暮らしとの関連で取り上げた授業展開を工夫する。 ・政治単元の原理や制度については、具体的なことから取り上げて、より理解がしやすくなるよう工夫する。 ・社会的事象への興味・関心を高めるため、授業の導入などで新聞を活用する。

宇都宮市立上河内中学校 第3学年【数学】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と式	77.3	77.1	71.0
	図形	75.6	72.4	59.3
	関数	65.3	65.2	51.0
	資料の活用	78.3	77.6	67.1
観点別	数学的な見方や考え方	67.0	65.5	48.8
	数学的な技能	78.4	77.5	69.8
	数量や図形などについての知識・理解	72.7	72.1	61.1

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

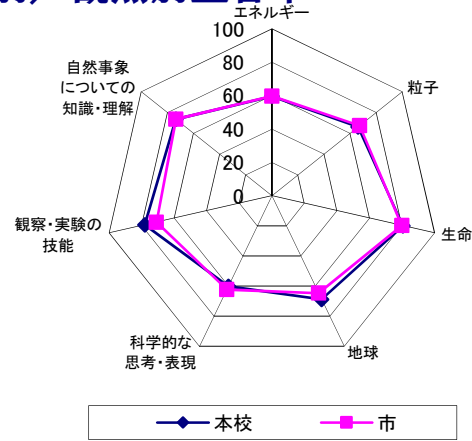
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	○数と式の領域全体では市平均を0.1%上回っている。3項目で2%以上上回っている結果となった。 ○問題を解決するための方程式をつくる問題では、市平均より7.4%大きく上回っていた。 ●領域で13項目あるが、半数以上の7項目で下回る結果となった。	・今年度実施した1年生からの基礎・基本的小テストを、今後も継続して繰り返し取り組ませることで、内容の定着を図る。 ・かがやきルームやT・Tの指導体制を活用し、生徒の苦手意識の改善を図る。
図形	○図形の領域全体では市平均を3.2%上回っている。 ○市平均と比べて、角の二等分線を作図する問題では14.2%、証明の過程において、対頂角を指摘する問題では13.3%と大きく上回る項目が2つあった。 ●三角形の合同や相似を証明する問題では、市平均よりも1.4%、1.3%と下回ってしまった。	・1、2年生の内容の復習を、継続して繰り返し取り組ませる。 ・2年生で学習する三角形の合同証明や相似な図形についてもう一度復習し、内容の定着を図る。
関数	○関数の領域全体では市平均を0.1%上回っている。3項目で1%以上が上回っている結果となった。 ○本校の生徒の多くが苦手意識のある、長い文章問題を読み取る問題で、市平均よりも1.6%上回っており、指導の成果が見られた。 ●2乗に比例する関数で変化の割合を求める問題が市平均よりも3.3%下回った。	・生徒の中でも苦手意識の高い「関数」の分野において、1、2年生の内容の復習を徹底して行っていく。 ・比例・反比例、一次関数、2乗に比例する関数において、一般式の表し方の指導を重点的に行うとともに、表・式・グラフの関連を生徒に理解させる。 ・グループや任意小集団など、学習形態を工夫しながら発展的な問題にも取り組ませることで、学びあいの機会を作る。
資料の活用	○資料の活用の領域全体では市平均を0.7%上回っている。 ○大小2つのさいころを投げたときの確率を求める問題では、市平均と比べ8.9%大きく上回っている。 ●6本のくじから1本を引くときの確率を求める問題では、市平均よりも6.1%下回っていた。	・2つのさいころを投げる問題、硬貨を投げる問題、あたりくじを引く問題など、確率についてのさまざまな事象についてもう一度指導を行い、内容の定着を図る。 ・平均値の求め方について、正負の数を利用した平均値を求める方法についても定着させる。数学だけでなく、理科の実験など他教科との連携を図りながら指導にあたる。

宇都宮市立上河内中学校 第3学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	エネルギー	59.7	59.7	57.9
	粒子	66.1	67.4	59.8
	生命	80.6	79.9	73.5
	地球	68.8	64.7	54.6
観点別	科学的な思考・表現	60.2	62.3	56.3
	観察・実験の技能	78.1	70.9	65.4
	自然事象についての知識・理解	73.6	73.5	66.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

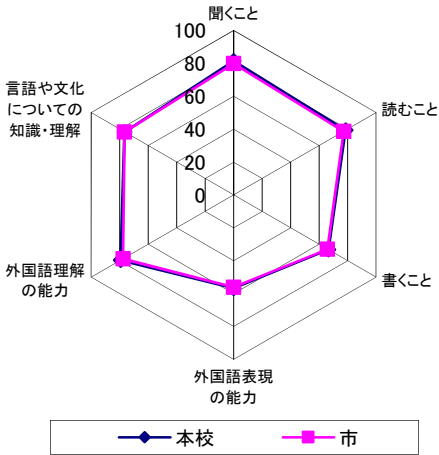
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
エネルギー	○市の正答率59.7%と同様の結果を示している。問題では8項目中4項目上回った。 ○実験・観察の内容については理解できている。 ●音の速さを求める問題では、5.4%市の平均より下回っている。	・実験の方法や結果については、理解できているので、今後も導入や結末で発問を通して、理解を深めていく。 また、計算問題については、例題を増やし繰り返し学習をして定着をさせる。
粒子	●市の正答率67.4%に対して1.3%下回っている。密度と質量から体積を求める内容や中和でのイオンの数の変化について市より8%以上と大きく下回っている。 ○問題では9項目中6項目が市より上回っている。実験・観察での注意点や実験方法について理解できている。	・実験の方法や結果については、理解できているので、今後も導入や結末で発問を通して、理解を深めていく。 また、計算問題については、例題を増やし繰り返し学習をして定着させ、粒子は目に見えない領域なのでモデル図などを活用して授業展開していく。
生命	○市の正答率79.9%に対して0.7%上回っている。問題では9項目中6項目上回っている。実験で使う薬品についての理由について市より7%近く上回っている。 ●植物の特徴を説明させる内容やデータから植物を分類させる内容について市より5%以上下回っている。	・実験・観察から得られたデータをもとに活用する内容が不十分なので、結果だけでなく、それらを活用できる授業展開をしていく。
地球	○市の正答率64.7%に対して4.1%上回っている。問題では6項目中4項目上回っており、その中でも天気記号の作図など市より30%近く上回っている。 ●岩石でき方や前線の通過時の天気を予測する内容が不十分である。	・天気記号など毎日活用できるものは、授業だけでなく黒板に書かせるなど、継続していく。前線の通過後の天気や火成岩のでき方など予測する内容が不十分なので、考えさせる時間を確保し、記述させて学習を定着させる。

宇都宮市立上河内中学校 第3学年【英語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	聞くこと	81.4	79.9	75.7
	読むこと	78.7	77.3	72.8
	書くこと	66.5	66.0	69.3
観点別	外国語表現の能力	56.7	56.1	58.8
	外国語理解の能力	79.3	77.6	72.3
	言語や文化についての知識・理解	76.5	76.6	76.3

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。
(英語では本市独自の設問が含まれるため、参考値は全設問に対応した値ではない。)



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	○市の正答率79.9%に対して1.5%上回っている。特に、「絵を適切に表している英文を聞きとる」問題や「対話の内容を聞き取り適切に回答する」問題では6項目中4項目で2%以上上回った。 ●英文の要点を聞きとる問題では、3項目中2項目市の平均を下回った。	・英語による授業やALTとの対話活動、また補助教材のリスニング教材を活用し、イントネーションや音の連結などを学び、英文を聞き取る力をつけたい。また、まとまった英文を聞かせ、内容の要点を聞き取るような英問英答を取り入れていきたい。
読むこと	○市の正答率77.3%に対して1.4%上回っている。 対話の流れから登場人物の適切な発言を判断する問題では7.0%、thatの内容を把握する問題では6.0%と大きく上回った。 ●接続詞ifの語法を問う問題では2.0%、長文のスピーチの内容を問う問題では2.4%下回った。	・長文を読む際に、指示代名詞が具体的に何を指しているか確認しながら読むことを今後も継続して指導していきたい。 ・接続詞の用法理解がまだ不十分なので、授業の復習なども3年生だけの内容でなく、過去の内容も踏まえて定着を図りたい。
書くこと	○市の正答率66.0%に対して0.5%上回っている。 自分の夢について、3文以上のまとまった内容で説明する文を書く問題では、3項目中2項目が7.7%以上と大きく上回った。 ●単語の並べ替えによる英作文や、場面に応じて書く英作文ではすべての項目が下回った。	・英作文の基本となる語彙や語形・語法の知識理解を高めるために、授業の中で既習事項の単語や文法を繰り返し復習できる場面を多く取り入れる。 ・場面に応じた英作文が書けるように、使用場面を意識させる課題を設定していきたい。

宇都宮市立上河内中学校 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
・表現力を高め、自分の考えを伝え、学び合うことのできる生徒を育成する。	話し合い活動や、グループ活動、発表の機会を意識的に授業中の必要な場面に応じて取り入れる。	「グループなどでの話し合いに自ら進んで参加している。」との質問に対し、肯定的回答が1学年は82.6%、2学年は71.4%、3学年は85.9%であり1学年は市割合を1.5ポイント、3学年は4.7ポイント上回っている。2学年は8.4ポイント下回ってしまった。 「自分の考えを、根拠を挙げながら話すことができる。」では、肯定的回答が1学年は64.0%、2学年は60.0%、3学年は85.9%であった。1学年は市割合を4.0ポイント下回っているが、昨年度の本校の肯定的回答と比較すると1学年は8.3ポイント上回っている。2学年は市割合を9.2ポイント、昨年度の本校の肯定的回答と比較すると21.0ポイント下回ってしまった。3学年は、市割合を11.9ポイント、昨年度の本校の肯定的回答と比較すると18.5ポイント上回っている。 「ものごとをいろいろな視点や立場から考えている。」では、肯定的回答が1学年は74.4%、2学年は82.9%、3学年は85.9%と1学年は市割合を2.8ポイント下回ってしまったが、2学年は5.4ポイント、3学年は4.1ポイント上回った。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

- ・重点的な取組の結果から、学習において伝え学び合う活動が少しずつではあるができてきており、生徒同士の関わり方にも変化が生じてきている。今後、グループ活動や話し合い活動等を通して一人一人の良さを認め合うことをこれまで以上に意識的に学習活動に取り入れることで、良い人間関係づくりに取組み学びを支え合う力を高めていく。
- ・基礎基本の定着を確実に図るため、小学校からのつまづきを小中一貫教科部会で把握し小中9年間を見通した指導を行い、達成感を味合わせるため達成目標を小さく設定する等工夫をし、各教科で確実に定着させる内容ではドリル学習や小テストを根気強く行う。また、授業の中だけでなく、日常生活の中でも考えを分かりやすく書いたり、話の要点を捉えて書くことを意識させて取り組む場面を設けることで「書く力」を培わせる。保護者への今まで以上の啓発活動を保護者会、三者懇談等を通して行い、保護者と協力して家庭学習ノートを通した家庭学習の習慣化と徹底化を図る。
- ・卒業後の進路や3年間の学習計画を見通して授業に臨めるよう、すべての教育活動を通して意識させることで学習に対する意欲関心を高める。